

1. コラム：一次産業（山・海）の新たな動き

（Japa 代表理事 芝原靖典）

2025 年の 3 月 27 日、ある縁があり、大磯町（神奈川県）の里山の空いていた牧場施設を借りて、約 200 頭の和牛の繁殖・育成をしている和牛牧場を訪問し、見せて頂いた。この牧場は姉妹で経営している。本業の和牛肉を地元ブランドとして育てていく「地域循環経済」（地元地産地消そして国内地産外消）、牛舎の堆肥に籾殻を混ぜ発酵させ敷き材として再利用したり、籾殻を混ぜない有機肥料を地元の農家に利用してもらう「資源循環」、さらには牧場空間を癒やし・学びの場、つながりの場として地元の人々に利用してもらう「ひとづくり循環」という三つの循環を当初から構想し、着実に進めているとのことであった。そのバイタリティに感動した。

その 3 日後、「ポツンと一軒家」（03/30 放送）で、「山地（やまち）酪農」（搾乳小屋以外は何もなく、広い山に一年中、昼も夜も放牧。土砂崩れを起こしにくい山ができる）を知った。この牧場の場所（神奈川県山北町の大野山）は、元は県営の乳牛育成牧場（2016 年廃止）で、岩手県の山知酪農牧場で学び働いた女性に移住し、2018 年から夫婦で山地酪農を始めたとのこと（現在、9 等頭）。山地酪農のつながりの拡大である。夫は家事（主夫）をし、酪農をサポートしながら米づくりを行い、稲作体験の場として地元地域や都会の子供とつながっている。

4 月に入ると、大磯町の里山のイノシシ対策の様子がテレビ放送「住民パワーでイノシシ撃退」（首都圏ネットワーク 04/02 NHK）された。イノシシ対策の専門家を招いて、イノシシを知る勉強会から始めたとのこと。イノシシの生態が分かった住民が自ら、年 2 回 10 年間、山裾の草刈りを続けたところ、イノシシの捕獲数が減少し、住宅地にも入ってこなくなったとのこと。この活動に、地元の高校生、大学生、地域の若い人たちも参加し、つながりが広がっている。

この勉強会を通じた「ひとづくり」は、里山そのものの保全・活用でも行われている。大磯町の里山の広葉樹も嘗ては薪や炭焼きに活用されていたが、電気・ガスの普及により、利用されなくなり放棄されていた。そうした中、2019 年から始まった森林環境譲与税の譲与を利用して専門家を招いて「小さな林業を旨とする自伐型林業」の研修を開始し、これをきっかけに林業グループが立ち上がり、つながりが広がり、「小さな経済」が回り始めているようである。

そして、5 月。「ガイアの夜明け」（05/1 放送 テレビ東京）で海藻養殖を行い流通させている事業会社を紹介していた。日本の海から海藻が消えている状況が進む中、海藻を「種」から育てるという方法が研究開発され、実用化されていることを初めて知った。「海藻牧場」とも云え、海の生態の再生を通じた水産業や沿岸海域利用のイノベーションにつながる。その技術には、多様な企業から関心が寄せられており、今後の更なる「つながり」展開が楽しみである。

生産者（主業/専業米農家）が見えない「令和の米騒動」で農業のあり方が問われている一方で、山や海で上記したような新たな試みが進んでいる。人口が減少し、日本の国土の使い方に余裕が出る今後、食糧安保にもつながる「国境を超えない地産地消」ができるチャンスである。

補：本コラムの参考資料等は <https://shikumi-gunzo.hatenablog.com/>、バックナンバーは <https://www.japa.fellowlink.jp/column> に掲載